

教育新報

新大教育学部同窓会
 第170号
 発行人 白 杵 勇 人
 事務局 新潟大学
 教育学部内
 TEL(025)263-6760
 印刷所 (株) 文 久 堂



新たな年に 教職大学院への期待

教育学部同窓会副会長 村川 孝子

新しい年が明けました。今年は、我が同窓会にとって、記念すべき年となりました。新年度には、母校新潟大学教育学部に教職大学院の開設が予定されています。第一期となる新入生は、現職教員含め一五人の予定です。期待は大きく膨らみます。

今日の学校現場には様々な教育課題が山積しています。学力向上、いじめや不登校など深刻な生徒指導上の問題、特別支援教育の充実、ICTの活用、新しい学びに対応する指導など複雑で多様な課題に適切で迅速な解決が求められるところと、このような状況下で、地域とともに歩む学校を創り、日々の教育活動を支えているのは、地域、保護者に信頼される教職員の存在です。高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教師です。学校の円滑な運営は、教師一人一人の指導力に

因るところが大きいことを実感します。また、近年、全国と同様、新潟県、新潟市でも、退職世代が多くなり、若手が増えつつあることやミドルリーダースとされる中間層が少ないという年代構成のバランスの悪さがあります。教職員の力量は、採用されてからの学校現場での勤務の中で先輩教員の教えや日常の指導の中で向上してきました。しかしながら、現場のミドルリーダー層が薄いことにより、教育技術の伝承を妨げるのではないかと危惧されます。そのような中で、母校に教職大学院が開設されることとなりました。多くの期待を寄せるところです。

一つには、力量ある新人教員の輩出への期待です。教職大学院において、学校現場の課題に即した教育内容に基づく授業を受け、高度な知識・技能を身に付けた若い教員が育っていくこと

で、学校は即戦力を得ることができます。また、柔軟な対応力と学んだ知識・技能をもつて学校現場の課題に果敢に取り組んでいくことは、教育現場を活性化させます。子どもたちの健全な育ちを促し、地域の信頼確保につながっていくことでしょう。

二つには、学校現場を支え、地域交流を支援する存在となることへの期待です。教師にとって学び続けることは不可欠なことです。現職教員が勤務しながら学ぶことができ、これまでの実践を深め、より高度な知識・技能を身に付けることが可能となります。さらには、他の教員に対しても指導的な役割を担える指導力と実践力を備えたスクールリーダーとなる職員の養成を期待します。また、派遣教員が、現場と大学の緊密なつながりを作ることで学校課題の解決に資することになるでしょう。大学と学校が相互に交流することで、地域や学校における教育改革の取組を支援する高度な技術を、学校へ波及させてほしいと願います。

母校の教職大学院の設置は、新潟県、新潟市の教育に大きく貢献し、子どもたちの健やかな成長に大きく資することになると確信しています。同窓会会員である私たちは、以前にも増して太い絆を作り、各々の立ち位置で、今後の教職大学院の充実・発展に心をひとつに力を尽くしていくことをあらためて再確認したいと思います。

花鳥風月

日本最古の公立小学校が、新潟県にあることをご存じだろうか。それは、中越地区にある小千谷小学校である。明治元年十月山本比呂伎により小千谷小学校は設立された。学制発布の五年前のことである。

戊辰戦争の中、住む家を焼かれ、親兄弟を亡くした長岡藩の家族は小千谷にもたくさん逃げ延びてきた。新政府軍はそのような者をかくまったり、世話をしたりする者には厳しい罰を与え、と言う決まりを出していた。長岡藩の子ども達は食べるものも泊まることもなく、寺の軒下などで身を寄せ合っただけで生きていた。

「子どもに罪はない。みんな同じ日本の子どもではないか。」と考えた比呂伎は新政府に毎年金千両を払うことを約束し、開校の運びとなった。比呂伎の教育観に「寛にあれ」という考え方があつた。人間は生まれながらにして善である。決して急ぐことなく、教育の力で個人のもっている力を徐々に引き出して行くべきであるという考えがある。

小千谷小学校は来年、百五十周年を迎える。比呂伎の精神を大切にしながら子どもと共に進んでいきたい。

(広報部 江口 範文)

新潟大学教育学部同窓会

第四十二回同窓生の集い

研修部副部長 小泉 慎子

九月二十六日(土)、ホテルラングウツド新潟にて「今、海外は安全なのか〜日本人が気をつけなければいけないこと〜」と題して外務省領事局海外邦人安全課邦人援護官の伯耆田修様よりご講演をいただきました。

一 記念講演会

(一) 開会の挨拶
はじめに白杵勇人同窓会会長より講

師の紹介がありました。

講師の伯耆田様は海外にいる日本人の安全を守る仕事をされています。邦人関与の事件が起きる度に出張され、訪れた国の数は、四十以上を数えます。また、海外に目を向けてほしいという思いで、日本の高校生にも年間十本以上の講演をなさっています。外務省の第一線で活躍の方です。

また、白杵会長より新大教育学部の動向として、教職大学院が新設されることについて説明がありました。専門性を高めるために、ぜひ同窓会から出願者が出るようご協力いただきたいと話されました。

(二) 記念講演

まず、邦人援護官の任務についてのお話がありました。外務省には世界中にモニターがあり、職員一人が二十か国を担当し、事件・事故が起きると現地へ飛び、確認作業を行うそうです。三年前、フィリピンで八千人が亡くなる大型台風が襲った際には、ありったけの食料をフェリーに積んでフィリ

ピンへ急行されたそうです。電柱や住宅が倒れた中、一軒一軒回りながら聞き込み作業を行いました。邦人百三十三人全員の安否確認には三週間も要したということです。

次に、「海外では日本の常識は通じない」というお話をされました。以下は日本の風習・習慣が海外ではトラブルになる具体例の一部です。

○子どもの頭を撫でる(子の頭には霊が宿っているという考えから)。

○ダムや原住民の写真を撮る(拘束されてしまう事があるから)。

○警官の前で胸のポケットに手を入れる(拳銃所持を疑われるから)。

特に、日本人が狙われやすいのはスリや置き引きで、その手口は巧妙・集団化しているそうです。例えば一人が足下に紙幣等を落として気を引き、その間にもう一人が後ろから財布を取るといった役割型の手口が多いそうです。外務省は、今は事件を予防する事にも力を入れているそうです。海外渡航前には、十分な額の保険に入り、行き先国の危険情報を省のホームページで確認する事が必須であると教えてくださいました。

豊富な海外の映像を交えながらのご講演はとても楽しく勉強になり、盛況のうちに終わりました。



懇親会

二 懇親会

- (一) 開会の挨拶 白杵勇人 会長
- (二) 祝辞 鈴木賢治 学部長
- (三) 乾杯 藤井保男 顧問
- (四) 懇親会
- (五) 万歳三唱 斎藤寿一郎 顧問
- (六) 閉会の挨拶 山下あい子 副会長

近年、講演会や懇親会の参加者が少なくなってきました。年に一度の同窓生の集いです。同窓生ならどなたでも参加できますので、来年度はたくさんの方のご参加をお待ちしています。ぜひ旧交を温めましょう。



講演会の様子

会員の広場

友情は時を超えて



新潟市立早通小学校

今井 真悟

私が新潟大学教育学部を卒業したのは昭和五十五年である。教員になって三十六年、久しぶりに大学時代の仲間と新潟で会った。三年の時に、「北海道ツアー」のバイトで知り合った縁である。今は、県外で教員をしているが、十一月の三連休に新潟に集まった。

久しぶりに顔を合わせたとき、お互いの見た目の変化に時の流れを実感したが、話し始めるとたちまち学生時代に戻ってしまった。新潟の街を半日散策した後、新潟在住の仲間を加え懇親会を行った。四人がそろうのは実に三十年ぶりである。立場はそれぞれであるが、同じ時代に新潟大学で学び、楽しい時間を共有した仲間との友情は時を超え強いままである。話の中で、親の介護で参加できなかったもう一人の仲間との再会を期し、「来年はみんなで山梨に行く」という計画も具体化してきた。退職まであと二年。学生時代の仲間との親交を深めていきたいと実感した出会いであった。

着ぐるみ



新発田市立東豊小学校

加藤 聡史

学生時代、着ぐるみのアルバイトをしていたことがある。真夏の着ぐるみは過酷だ。なにしろ、着ぐるみに付いている直径3cmくらいの穴（黒のメッシュ素材）からしか空気が入ってこないのだから。それに、その穴からしか外を見ることができず、歩くのも介助が必要だった。主な仕事は、子どもたちと一緒に記念撮影をするだけ。それだけなのに、事件は起こった。一時間くらいしゃがみ、百人近くの子どもの撮影会が終わった時、足のしびれと脱水症状でよろけてしまったのだ。その拍子に、着ぐるみの頭が床にぼとつと落ちてしまい、私の顔があらわになった。それを見た子どもたちの顔は今でも忘れられない。

あれから数年。なぜか今も着ぐるみを着ている。しかも学校で。（生活指導劇のためです。）私は、子ども心を忘れず、毎日クリエイティブに過ごせるこの生活が大好きだ。残り三十年以上ある教師生活。様々な課題に直面すると思うが、日々精進し、日々笑顔で過ごしたい。

ある日のびきょう



津南町立津南小学校

長澤 俊紀

昨年度から、体力作りのためトレーニングジムに通うようになりました。ことの発端は休み時間。運動不足の影響で、子どもたちと一緒に遊んでいてもすぐに疲れて動けなくなってしまうことに危機感を感じたからです。「先生太った？」「お腹が出てきたよ」と言われ、軽くショックを受けていたことは、子どもたちには内緒です。

毎日少しずつでも運動して、健康的な学校生活を送ることができるよう頑張りたいと思います。

学生時代、「卒業する前にたくさん遊んだ方がよい」という話を先輩から聞きました。当時は、何故？と不思議に思っていました。しかし、今ならこの言葉の意味がよく分かります。学生時代にしかできない貴重な体験や交友関係は、今でも大切な宝物となっています。これからも何気ない日常生活を大切に、仕事もプライベートも充実した生活を目指して努力していきたいと思えます。

仲間から教わったこと



出雲崎町立出雲崎小学校

見玉 洋平

大学時代と言われて、真っ先に思い浮かべるのは研究ゼミです。僕の所属したゼミの学生は「ここで学びたいことがある」という高い志をもっている人ばかりでした。そんな中に身を投じた僕も仲間と研究に励むうちに、その姿勢に感化され、学ぶ楽しさを感じるようになりました。研究について熱心に議論する中で自分の意見がよりはつきりしたり、意見の食い違いがあっても根気よく話し合っつて納得することで、さらに理解を深めたり…。そういう何を言っても大丈夫だという風土が研究室にはありました。だから、話し合うことのよさを実感できた場として、今でも心に焼き付いています。

この経験を生かして、小学校教員として、そんな学びが深まる学級を作りたいと思うようになりました。子どもたち自身の話し合いへの意欲、安心して話せる学級風土、学ぶことへの真剣な態度など、これらを、どう育てていくか日々考え、日々奮闘しています。

学校紹介 ①

心と体の健やかな成長を
目指した学校づくり

燕市立分水小学校

当校は、良寛の里として知られる燕市の分水地区に位置し、毎年、春の風物詩である大津分水の桜と「おいらん道中」を一目見ようと、たくさんのお客が訪れます。この豊かな歴史と文化、自然に恵まれた地で、子どもたちは健やかに成長しています。

当校では、学校目標「ぐんぐん伸びる若竹の子」の具現を目指し、学力はもちろん、心と体の育ちを大切にしながら教育活動に取り組んでいます。

一 運動と食を通じた健康づくり

当校は、新潟県小学校教育研究会の指定を受け、「運動に親しみ、主体的に健康づくりに取り組む児童の育成」を主題として体育科の研究に取り組んできました。昨年十一月には研究発表会を開催し、多くの皆様からご意見をいただきました。

低学年ではペアで動きを工夫する平均台遊びの実践を、高学年では相互評価の手だてを重視したバスケットボールの実践を公開しました。また、中学年では「健康貯金通帳」を通して自分の健康課題を考える保健学習を行い、

毎日の「食」を大切にしようとする態度の育成を図りました。



「足にぐっと力を入れて！」
「しっかりと支えていてね。」

こうした授業実践とともに、年間3回の「子どもが作る『弁当の日』」の取組を推進しています。家庭の協力を得て、主食である「米」を中心に、栄養のバランスを考えた副菜を作ったり、それを弁当箱に詰めたりと、学年に応じたためあてに向かって子どもたち一人一人が取り組んでいます。自分が食べるものを自分で作る経験を通して、日常における自分の食を見直し、安全・安心な食品を選んで自分で調理する児童の姿を期待しています。

二 豊かな心を育む地域との交流活動
秋には、地域のボランティアの皆さんの協力を得て、学校前の通学路をきれいな花で彩る『フラワールードづくり』の活動を行いました。

縦割り班の子どもたちが苗の植え方を優しく教えてくださる姿からは、学校に寄せる温かい思いが感じられます。



「根を痛めないようにね。」
「花の向きを揃えて植えるときれいに見えるよ。」

さらに、文化祭では、PTAはもちろん、地域のお年寄りや高校生の皆さんも参加する手作りの「地域交流タイム」を通して、子どもたちと地域の方々の心の交流を進めています

来年度、当校は創立五十周年を迎えます。一人一人の心と体の育ちを大切にし、誇りをもって学ぶことができる学校づくりを、保護者や地域の皆さんと手を取り合って進めていきます。

(文責 小島 和浩)

平成二十七年
会務報告

平成二十七年



4・6

入学生保護者説明会
(学部大講義室)

4・22

平成26年度会計監査
(じょいあす新潟会館)

5・17

本部会 (新潟教育会館)

6・7

評議会 (新潟教育会館)
学科代表者会・支部長会

7・20

教育新報「第169号」発行

8・29

役員会議(じょいあす新潟会館)

9・26

第42回同窓生の集い
(ホテルラングウッド新潟)

学校紹介

②

太田地域の教育力を活かして

学校づくりを進める

新潟市立太田小学校

太田小学校は、新潟市(旧豊栄地区)の中でも新発田市や聖籠町寄りに位置しています。周囲を水田で囲まれ、福島潟にも近く、自然豊かな環境にあります。児童数六十五名、六学級の小規模校です。

一 「太田の森」を引き継ぐ

太田小学校には学校ビオトープを中心とした「太田の森」があります。

この学校ビオトープは、平成十一年より、学校の敷地内に造成したもので、地域・保護者の皆さんが、子どもたちとともに作り上げたものです。その大切な「太田の宝」をこれまで守り続けてきています。六年生を中心に全校でビオトープを中心とした環境学習を進めています。

実際の活動では、月に一回、「ビオトープの日」を定め、六年生を中心に、全校の子どもたちや地域の皆さんで、ビオトープの周りを整備します。また、六年生は、ほたるについて詳しく調べると



ともに、ビユー福島潟の職員さんに教えてもらいながら、学習を進めています。七月には、「ほたるを観る会」を開催し、保護者の皆さんとともに、ほたるの様子を観察しました。子どもたちは、ほたるを見付けると歓声をあげていました。自分たちが守ってきたという気持ちの表れです。その活動を十二月には五年生に引き継ぎました。五年生は、六年生のこれまでの取組に感謝しながら次は自分たちだという気持ちになりました。

このような子どもたちの取組がこれまで続いてきたのは、地域・保護者の皆さんの協力とともに、脈々と続いてきた子どもたちの「ほたる」への思いだと考えています。この取組はこれからも「太田の宝」として引き継いでいきます。

二 「郷土の伝統芸能」を引き継ぐ

校区には、昔から伝わる「サイサイ踊り」があります。それを、今の子どもも楽しめるように現代バージョン「太田っ子サイサイ踊り」にして運動会で披露しました。振り付けは、地元の新潟医療福祉大学に協力を求め、一年生から五年生は「踊り」の役、また、一緒にやる「太鼓」の役は六年生が行



い、地域の皆さんから教えていただきました。

太田小学校では、文化祭「太田の森祭り」をはじめ、多くの教育活動に地域・保護者の皆さんがかかわってきました。それだけでなく、「教育振興会親子お楽しみ会」や「太田ちいきコミ協主催のミニサッカー大会」等、様々の場面でかかわっていただいています。

ところで、太田地域のよりよい教育環境について協議し、その具体的方策を検討するため、平成二十六年六月に太田ちいきコミュニティ協議会、自治会、太田小学校教育振興会など、学校にかかわる地域団体が構成される「太田小学校のあり方に関する検討委員会」を立ち上げ、九回に渡って協議を重ねてきました。その結果、平成二十七年五月に、太田地域の総意として、平成三十年四月を目前に、葛塚東小学校への編入方式での統合を求める内容の要望書を市長と教育長に提出しました。そして、平成二十七年十一月に正式に統合が決定しました。

今後は、それを見据えて、これまでの地域の教育力を活かした取組をさらに充実させながら学校づくりを進めていきます。(文責 小林 久哉)

10・24

全学同窓会設立10周年記念行事

・記念講演会

・記念式典

・祝賀会

(ANAクラウンプラザ

ホテル新潟)

10・31

教育シンポジウム

(学部大講義室)

平成二十八年

1・21

教育学部教員・職員と同窓会との懇談会

(じよいあす新潟会館)

2・20

教育新報「第170号」発行

3・3

本部会(新潟教育会館)

3・23

卒業式・祝賀会

(朱鷺メッセ)

東映ホテル新潟)



全学同窓会設立十周年記念行事

広報部 佐藤 紀代子

新潟大学全学同窓会記念行事が、十月二十四日(土)にANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。平成十八年に全学同窓会が設立されて以来、今年は、十周年の節目にあたり、記念の交流会となりました。

高橋姿新潟大学長の開会の挨拶の後、東京農業大学名誉教授の小泉武夫氏から「発酵食品の神秘」についてご講演いただきました。



全学同窓会直前の十月下旬、二〇一五年のノーベル医学生理学賞に、熱帯病の薬を開発した北里大学特別栄誉教授の大村智氏が選ばれ、薬のもとになった微生物の力に注目が集まっています。小泉氏の専門の「発酵食品」を生み出すのも、そうした微生物の仲間たちで、十周年の記念にふさわしい講演会となりました。

微生物は、乳酸菌や酵母菌に代表されるようにヨーグルトや酒やパン等の発酵食品を生み出します。そして、その発酵食品には、整腸作用等もあるた

め、微生物が人間の体を健康に保っているともいえます。最近では、「一汁三菜」の中に味噌汁や漬け物がある和食が世界無形文化遺産に登録され、日本の発酵食品の健康メリットの高さが世界にも示されました。発酵食品は食べるだけでなく、動物性の飽和脂肪酸を植物性の不飽和脂肪酸に変えることにより、食肉センターの脂肪処理にも役に立っているそうです。また、多摩川の水の浄化や土壌改善等、微生物による環境浄化の発酵もあります。医療の分野でも、乳酸菌の抗菌作用を利用した研究が進められています。映像を交えたお話から、発酵の作用が広く利用されていることを紹介していただき、発酵が地上の動植物の生存に不可欠な作用であることがよく分かりました。産業、医療、バイオテクノロジー等、様々な分野から発酵の可能性に期待が高まる今、共に研究を進めようという小泉氏の言葉に希望と勇気をいただく記念講演会となりました。



先輩の声

「古希も過ぎいて」

藤井 保男

(二四期)

「四十にして惑わず。五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従って距を踰えず。」
本来であれば古希を過ぎた私は、これらをすべてクリアしていることになるとののだが……。

平均寿命は、日本の男性も八十歳を越えた。(世界三位)。健康寿命も七十一歳を越え、世界一位。女性にはまだかなわないが、男性もなかなかのものである。

現在、無病息災の私は、健康寿命を越えたことになる(ただ、記憶力等の脳の衰えは隠しようもないが)。これは百薬の長たるお酒を毎日欠かさず飲んでいられるお陰かもしれない(自己弁護?)。ちよつと自慢できるのは、晩酌は一合でやめていること。ただし残念なのは、宴会などの時はブレイキが壊れ、翌朝いつも反省を繰り返していることである。よって冒頭に掲げた孔子の教えは、私には無縁のこととなる。

最近ちよつと気になる言葉で「終活」という言葉をよく耳にする。忌み嫌う人もいるようだが、残された家族のこなどを考えると必要なことかなと思っ

園芸が趣味の私は、庭には草木や鉢花が所狭しと枝葉を伸ばしている。私がいなければ、無用の長物となる。手始めに、七、八メートル程に伸びた赤松の大木二本を伐採した。季節によって出し入れする鉢花の手入れも大変である。

その外、いろいろな思いがこもった書籍や道具類。収集は好きだが、捨てることのできない習癖。「断捨離」などという耳慣れない言葉が使われるようになってきたが、これも私にはなかなかの高いハードルである。

その外、遺産(相続は「争族」とも言う。少ないだけにかえって心配)や病氣、葬儀のやり方……。やることが一杯あって、死に神が迎えに来てもらうしばらくは待つてもらおうしかない。最後に、お世話になった同窓会のこと。目まぐるしく変わる教育政策。口は出すが金は出さない政府。その度に、教育現場、同窓会も四苦八苦。しかし、何とか皆さんの努力と協力で切り抜けてきた。今後とも役員の方々、会員の方々のお力で、子どもたちの未来のために尽力いただきたい。私も迎えが来るまでは微力であるが協力していきたいと考えている。

教育学部との懇談会

教員を志望する学生への支援充実を
図るための大学と教育現場の相互理
解と連携

交流部副部長 小泉浩彰

一月二十一日(木)、新潟市中央区
じよいあす新潟会館にて、『新潟大学
教育学部教員・職員と同窓会役員との
懇談会・懇親会』が行われました。毎
年、同窓会交流部が企画・運営する事
業で、今年度も多くの方々にご参加い
ただき、相互の願いや今後の方向性を
共有する有意義な会となりました。



懇談会・懇親会

学部からはご多用の中、鈴木賢治学
部長様をはじめ十二名の教員・職員の
方々からご出席をいただきました。同
窓会からは、臼杵勇人会長以下十五名
が出席しました。

懇談会で、鈴木学部長様より、次の
三点についてお話をいただきました。

○平成二十六年卒業生の教員就職率
は六〇%を超え、内訳も正規採用数
が増加し、確実に教員養成学部とし
ての実績を上げてきている。

○来年度より設置される教職大学院で
は、地域密着型のシステムを構築し、
リーダーとして活躍できる人材を育
成することを通して、地域及び学校
の教育力の向上に貢献していきたい。
○教育実習では、学生の目的意識や教
員になりたいという意欲を高めても
らえるとうれしい。

同窓会の各専門部(研修・広報・組
織・交流・全学・事務局)から今年度
の事業概要の報告を行いました。
その後の意見交換では次のような質
疑応答や提言がなされました。

学…学部 同…同窓会
【教育実習や学習支援ボランティアで
同…『やる気』を感じる学生が増えて
きている。教員から声をかけている
が、自分からも関わるように促して

いる。

同…学ボラで来た学生が三年生の時
に「自分は教員としてやっていくの
か不安があり悩んでいる。」と話し
ていた。その学生が、授業や活動に
参加するなかで「何をしたらよいで
しょうか。」と自分から尋ねるよう
になり、四年生の時には「子どもた
ちと接することが楽しい。」と前向
きになっていった。

【インクルーシブ教育システムの構築】
同…来年度、新潟市の小学校では、
特別支援学級が二十四学級増加する
予定である。通常学級においても特
別な配慮が必要な子どもたちが増え
ている。学生の時から特別支援教育
についての学習をしておいてほしい。

学…教職大学院においても必修六領
域のうちの一つに『特別支援教育に
関する領域』を設定した。
【大学と学校と地域との連携】
同…今後、学校が地域と連携する事
業が増えていく。イベント時だけ協
力するボランティアもお願したい。

大学で「子どもたちと接してきな
さい。」と背中を押して、一層学ボ
ラの人数を増やしていただきたい。
学…県立大学や薬科大学等にも教職
課程があり、他大学とも連携しなが
ら子どもたちと接する機会を作って
いきたい。

最後に山下あい子副会長から、同窓
会として全力で学部や教職大学院を支
え、学生に『自己決定できる力』を付

けさせていきましょう、というあいさ
つで懇談会を閉じました。

会場を移動しての懇親会は、臼杵会
長より学生の頃のスポーツ・サークル
活動の重要性についてお話がありまし
た。木村政伸副学部長様からは学生時
代のワングル部での思い出話とともに
乾杯のご発声で開宴となりました。

懇談会で出された課題の解決に向け
て、情報交換や教職大学院への期待な
どを語り合い、学部と同窓会との懇親
を大いに深めることができました。

八坂剛史副学部長様から、学部と同
窓会の更なる発展への思いを込めて、
万歳をいただきました。

最後に、本間正人副会長よりあいさ
つがあり、人材育成とともに学生の意
欲向上に向けて一層の連携を確認し、
閉会となりました。



大学のコーナー

経済学教育の新たな展開

副学部長 柴田 透

私の専門は、経済教育・経済学です。経済教育といえば、一九七〇年代までは、いわゆる近代経済学とマルクス経済学の両方が必修となっていました。

しかし、ケインズ経済学がスタグフレーションに対して対処できなかつたことやマルクス経済学が社会主義経済体制の崩壊により不人気となり、一九八〇年代から現在にかけては、近代経済学のなかの新古典派経済学が主流派の地位を占めてきました。新古典派経済学とは、基本的には市場に任せることが最善な結果をもたらすという理論でしたが、そこから導き出される政策は、市場が機能しやすいように規制を緩和し、競争を促進させるものとなります。社会主義国の市場経済への参入やインターネットの普及などにより、グローバル化が九〇年代より加速化したという現実とも呼応しています。

新古典派のなかでも最も極端なリアル・ビジネス・サイクル論では、景気変動は、従来は均衡からの乖離という見方でありましたが、均衡点そのものが外的要因によって変化しているだけであるという見方です。その理論によれば、失業者は自ら職探しをしている

自発的な人々であるという解釈となり、失業対策も不要ということになります。

二〇〇八年にアメリカで端を発した金融危機は、株価の大暴落とともに、アメリカの投資銀行も破綻し、二〇年代の大恐慌以来の大不況を生じさせてしまいました。金融工学によりいかなるリスクも処理できるとしてきた主流派経済学も、今回の大不況を単なる均衡点の変動とはいえない状況でありました。大学を訪れた英国女王がなぜこの不況を予想し、回避できなかったのかという質問には主流派の経済学者は答えることができなかったといえます。こうした事態に対して、経済学を見直す新しい動きが出てきました。ひとつは、拡大してきた経済格差を是正しようとする動きです。これまで経済格差は、経営能力や努力の結果であるとされてきたのに対して、資産相続の結果であることを実証したのが、ピケティです。ピケティは、先進各国の過去の税務調査から資産総額からの収益率（ r ）を推計し、それが常に経済成長率（ g ）を上回っていることを『21世紀の資本』のなかで明らかにしました。すなわち、 $r > g$ が意味することは、

賃金は経済成長率にほぼ比例すると仮定すると、資産をもつ者ともたない者との貧富の差は、資本主義においては放置しておけば自然に拡大するという結論です。ピケティは、これを是正する処方箋としては、世界規模での資産に対する累進課税を提案しています。昨年来日したピケティは、この現実可能性については、すぐには無理でも、固定資産税が歴史的にできたように、遠い将来には可能性はゼロではないと述べていました。

経済教育でも新しい試みがなされています。サミュエル・ボールズは、『アメリカ資本主義と学校教育』の著書が有名ですが、昨年、新しく立ち上げた経済教育のプログラム「コア・プロジェクト」の普及のため来日しました。
(<http://www.coreecon.org>)

コア・プロジェクトとは、オンラインで学習できる教育システムで、カリキュラムとしては、主流派経済学にかわって、現実社会の問題を理解・考察できるように、経済学の最近の発展だけでなく、他の社会科学の成果も動員した内容の新しい試みです。ボールズは、これは経済教育の新しいパラダイムを提供するものであると語っていましたが、少なくとも現在の主流派である新古典派経済学が数学を多用するだけで現実経済の問題への説明に疑問をもつ学生によっては、新鮮で興味を引き付ける内容といえるでしょう。

事務局から

◎お知らせ

来年度入学する学生の入試は、二月と三月に行われます。

新課程と言われてきた学習社会ネットワーク、生活科学、健康スポーツ科学、芸術環境創造の四つの課程の募集は、今回が最後になります。従って、同窓会に入会する学生数も少なくなりそうです。残念です。

・ 教職大学院が設置されました。

平成二十八年度から、教職大学院がスタートします。定員は一五名ですが、一・一月末に選考試験が行われ、最終的に一九名が合格しました。

・ 第一期生として頑張つてほしいです。

もうすぐ平成二十七年度が終わります。しっかり締めくくり心新たに新年度を迎えたいものです。

編集後記
教育新報一七〇号をお届けします。一年間、関係の皆様には、ご協力をいただきましてありがとうございます。これからも、会員の皆様の声を載せていきたいと思っております。会員の情報などがありましたら、事務局までお知らせください。